

敗戦の夏、疎開先で妹雪子を突如亡くす

疎開先の思い出〔旧・児島郡山田村〕

戦時中、主人公チツの一家は岡山県児島郡山田村へ疎開。慣れない土地で懸命に生活する様子が描かれる。この物語ではチツは5月から6月にかけて咲くキバナコスモスを「黄色いコスモス」と呼び、妹雪子へのおみやげにしようと考える。

主人公チツと妹の雪子が万一はぐれた時のために疎開先の住所を繰り返し言い合っているシーン

「オカヤマケン、コジマケン、ヤマダムラ、オオアザヤマダ、コアザシライシ、ササキカナカタ、イワムラユキコ」

ほらね、と得意そうに雪子はわたしの方に顔をつき出した。楽しいことが次々と出てくるおまじないを称えたように。

キバナコスモス



この写真はイメージです
2021年5月撮影

チツが墓場に咲くキバナコスモスの意味を知るシーン

わたしは夢中で、黄色い花をつみはじめた。クニちゃんがわたしのそばにくると、わたしの手をおさえた。お墓の花はつんではいけないというのである。この花は、ここに埋めた人の生れかわりなのだから、その人たちがもう一度地上に出てきて咲いているのだから。花をつめば、その人たちは二度死ぬことになる、とクニちゃんはいった。

チツはキバナコスモスを見て病気で亡くなった妹雪子进行思う

…雪子はもうすっかりあの山の土となり、黄色いコスモスをたくさん咲かせているに違いない。

キバナコスモスはコスモス属の一種で、コスモス同様に栽培の多い種です。学名のスルフレウスは黄色の意味があり、濃い黄色の花を咲かせるため、コスモスとはかなり違った印象を受けます。コスモスより葉幅が広く、耐暑性があります。

原種は草丈1m以上になり、やや短日性ですが、園芸品種は草丈が低く、日長に関係なく開花します。

「みんなの趣味の園芸」NHK出版より